

共時的星叢^{せいそう}一時を共にした星たち 越境する芸術のまなざし

Synchronic Constellation: Cross-Boundary Perspectives in Art

2026年9月5日（土）－12月13日（日）

台湾映画の異才が編む、台湾近代芸術

このたび東京都現代美術館では、1930年代の台湾で結成されたモダニズム詩のグループ「風車詩社」を描いた映画を起点に、近代の台湾と日本を多様な文化芸術をとおして見つめ直す「共時的星叢一時を共にした星たち 越境する芸術のまなざし」展を開催いたします。近代台湾の美術作品約200点、資料約600点に日本の作品約100点を加え、無数の星のようにそれらの関係性が交錯する空間のなかで、現代の視点から近代を再考することを試みます。

日本統治期に台湾へのシュルレアリスム導入を試み、日本語で詩作した数人の詩人をめぐる歴史的な営みを軸に、地域や時代、ジャンルを横断する多様な作品を散りばめた映画『日曜日の散歩者』（2015年、日本公開2017年）。この映画は、固定された物語を提示せず、観客がそれぞれの視点を見いだせるものでした。本展では、その監督である黄亜歴（HUANG Ya-li ホアン・ヤーリー）をゲストキュレーターに迎えます。

本展では、この映画をめぐる思索や編集手法を展示空間へと展開し、美術作品や文芸、映画、音楽、演劇、舞踏などの資料をモンタージュのように組み合わせ、6つの章を構成します。さらに、そこに黄亜歴のディレクションによる映像や反射する素材、迷い込むような動線が加わり、展示空間自体が、鑑賞者をも含めた複数の関係性の交差を生み出す装置として機能します。

近代の台湾と日本に確かに存在した個々の営みは、固有の光を宿し、たとえ隣り合っておらずとも、時を共にし、星座のように関係性が結ばれていたといえるでしょう。本展では作品同士はもちろん、わたしたち自身の身体や視線をも内包した、複雑で多様な関係が結ばれることで、既存の語りや単線的な歴史観から距離を置くことを目指します。その空間のなかで近代の作品や資料と出会うとき、それらは単なる過去の断片としてではなく、現在の経験として立ち現れ、わたしたちのまなざしそのものを問い返す契機となるはずで



1

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・内堀・永田・大塚
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp
※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。



ゲストキュレーター 黄亜歴 (HUANG Ya-li ホアン・ヤーリー)

キュレーター、映画監督。映画とキュレーションを横断する実践を軸に、歴史的な作品、資料と現代の感覚との対話を創出し、アジア近現代史における「忘れ去られた」文化的接点の再発見と再構築に取り組む。2015年の監督作『日曜日式散歩者 (Le Moulin)』は台湾のアカデミー賞といわれる金馬獎で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞。また、東アジア前衛運動の研究をもとに、展覧会「共時的星叢：〈風車詩社〉與跨界藝術時代」(2019年、国立台湾美術館)を企画し、関連書籍でも高い評価を受ける。

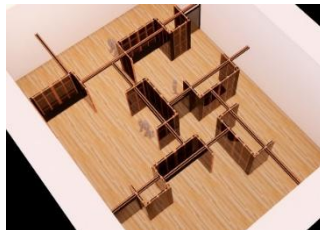
みどころ

1. 台湾近代美術を大規模に展覧する初の機会

台南市美術館、台北市立美術館、国立台湾美術館、高雄市美術館、国立台湾図書館など、台湾の15館以上の美術館・博物館および個人コレクションより、絵画・彫刻・版画・写真作品約200点に加えて、資料約600点を紹介し、出品作家は、黄土水(1895-1930、HUANG Tu-Shui ホアン・トゥシュエイ)、陳澄波(1895-1947、CHEN Cheng-po チェン・チェンポー)、李梅樹(1902-1983、LI Mei-shu リー・メイシュ)、何徳来(1904-1986、HO Te-lai ホー・テーライ)、林玉山(1907-2004、LIN Yu-shan リン・ユイシャン)、郭雪湖(1908-2012、KUO Hsueh-hu グオ・シュエフ)、洪瑞麟(1912-1996、HONG Rui-lin ホン・ジュイリン)、黄早早(1915-1999、HUANG Tsao-tsao ホアン・ツァオツァオ)、陳夏雨(1917-2000、CHEN Hsiayu チェン・シアユウ)、莊世和(1923-2020、CHUANG Shih-ho ジュアン・シーホー)など、近代の台湾美術を考える上で重要な作家が名を連ねます。この規模で台湾近代美術を日本で紹介する機会は、本展が初となります。

2. 台湾の気鋭の建築家 UxU スタジオによる、複数の関係が立ち上がる空間設計

本展の空間設計は、台湾を拠点に活動する建築家、陳冠宏と陳映竹が2013年に設立した「UxU Studio」が手がけます。反射する素材を活かし、関係そのものを生み出す構造として設計された空間により場全体がインスタレーションとなり、作品を「見る」ことにとどまらず、その関係のなかに入り込むような体験が生まれます。(参考画像) 会場デザインイメージ



UxU Studio (ユーバイユー スタジオ)

台湾を拠点に、建築、デザイン、アートの領域を横断して活動するコレクティブ。2013年に陳冠宏(CHEN Kuan-Hung チェン・クワンホン)と陳映竹(CHEN Ying-Chu チェン・インジュウ)によって設立。「日常(Usual)のなかの非日常(Unusual)」をコンセプトに、商業空間のインテリア、展覧会会場のデザイン、インスタレーション、プロダクトデザインなど、多岐にわたるプロジェクトを手がけてきた。国際的にも活躍し、日本では「CHRISTMAS HILLS 2025」(六本木ヒルズ)、「Toranomom Light Art 2023」(虎ノ門ヒルズ)にて、光を用いた作品を発表している。

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・内堀・永田・大塚

TEL：03-5245-1134 (直通) / FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。

3. ジャンルを横断する約 600 点の資料群

本展では、展示の半数以上を占める多様な資料群も大きな見どころです。当時の台湾と日本の双方で出版された書籍や雑誌、作家同士の交流を示す書簡、メモやアルバムなどの個人の資料をはじめ、当時の文学、音楽、レコード産業、舞踏、演劇、工芸などに関する資料約 600 点を展示します。これらは、単に作品を補完する資料としてではなく、近代における芸術文化の営みを形づくる複数の要素として、作品とともに星座を構成します。また、台湾の原住民族*に関わる資料も重要な位置を占めます。日本による統治政策や人類学的調査のなかで分類・収集されてきたこれらの資料を、本展では他の作品や資料とともに配置することで、あらためて現在の視点から捉え直します。

*台湾では、漢民族が台湾に移住してくる以前から台湾に住む人々を「原住民族」と呼びます。漢語の「先」という言葉には「既になくなってしまった」という意味が含まれるため、台湾では「先住民族」と呼ばれることはなく、本展でも台湾での呼称を尊重し、「原住民族」と記載します。

関連プログラム

9月5日（土）開幕記念シンポジウムを東京都現代美術館 講堂にて開催予定。本展企画者や台湾の研究者が登壇予定です。ほか、会期中にギャラリートーク、シンポジウムなどのプログラムの開催を予定しています。参加方法・詳細は当館ウェブサイトです。

関連情報

美術館内カフェ & ラウンジ「二階のサンドイッチ」で本展コラボフード & ドリンクメニューを提供予定です。

基本情報

展覧会名	共時的星叢一時を共にした星たち 越境する芸術のまなざし
会 期	2026年9月5日（土）-12月13日（日）
開館時間	10:00~18:00（展示室入場は閉館の30分前まで）
休 館 日	月曜日（9月21日、10月12日、11月23日は開館）、9月24日、10月13日、11月24日
会 場	東京都現代美術館 企画展示室 1F/3F
観 覧 料	一般 2,000円 / 大学生・専門学校生・65歳以上 1,400円 / 中高生 800円 / 小学生以下無料
問 合 せ	03-5245-4111（代表）
W E B	https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/Constellation/
主 催	東京都現代美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）、本木工作室有限公司
特別協力	台南市美術館、台北市立美術館、国立台湾美術館、国立歴史博物館、創価美術館、桃園市立美術館
助 成	台湾文化部、台湾外交部
特別協賛	アブライド・オプトエレクトロニクス、株式会社SGC
協 賛	中国信託商業銀行、東京スター銀行、台新新光フィナンシャルホールディングス
後 援	公益財団法人日本台湾交流協会
ゲストキュレーター	黄亜歴（映画「日曜日の散歩者」監督）
共同キュレーター	金島隆弘（金沢美術工芸大学 芸術学専攻 SCAPe 准教授）
会場デザイン	UxU Studio [陳冠宏、陳映竹]
担 当	鳥越麻由（東京都現代美術館 学芸員）

同時期開催の展覧会

2026年8月29日（土）-12月6日（日）多田美波一光、凜と ゆれる
2026年9月19日（土）-2027年1月6日（水） MOT コレクション

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・内堀・永田・大塚

TEL：03-5245-1134（直通） / FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。

広報図版の貸出について

広報用図版として8点をご用意しております。貸出をご希望の方は、下記の貸出条件をご確認の上、必要事項とあわせて図版番号をメール (mot-pr@mot-art.jp) にてご連絡ください。画像の利用は、展覧会の広報を目的とする新聞・雑誌その他のメディア（デジタルメディアを含む）の記事内の使用に限ります。

必要事項 御社名 / ご担当者名 / 貴媒体名（ジャンル） / 発売・放送予定日

貸出条件

- 画像には下記の作品情報（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト等）を併記してください。
- 画像のトリミング、文字載せ、編集等の改変はご遠慮ください。
- 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。記事の掲載後に掲載誌(紙)、URL、DVD等をお送りください。
- 画像データの二次使用はお断りしております。使用後はかならずデータを削除してください。



2



3



4



5



6



7



8

1 メインビジュアル

2 陳澄波《嘉義公園一景》1934 個人蔵

3 藤島武二《台南風景》1933 神奈川県立近代美術館蔵

4 楊三郎《巴黎小姐》[巴里の女] 1932 楊三郎美術館蔵

5 東郷青児《超現実派の散歩》1929 SOMPO 美術館蔵 ©Sompo Museum of Art, 26012

6 陳澄波《緑面具裸女》[緑の面をかぶった裸婦] c. 1929-1933 個人蔵

7 許深州《青嵐》1953 桃園市立美術館蔵

8 塩月桃甫《ロボ (Lubu)》1946 以降 桃園市立美術館蔵

※ 1点のみ掲載の場合は、1 メインビジュアル または 2 陳澄波《嘉義公園一景》をおすすめしています。

※ [] 内は参考日本語訳です。画像掲載時は省略可能です。

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・内堀・永田・大塚

TEL：03-5245-1134（直通） / FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：<https://www.mot-art-museum.jp>

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。